

品川支部

令和六年4月1日発行

〒141-0022

品川区東五反田1-8-5

TEL 3442-7075

4月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

イベント満載の四月 教区記念祭、教祖誕生祭 全教一斉ひのきしんデー

四月はイベント満載、四日立教187年東京教区記念祭、品川支部では焼きそばの模擬店をだします 櫻もこれに合わせコロナ前より多くの模擬店で完全復活

十八日本部では教祖御誕生祭で翌十九日は婦人会総会が催されます

そして二十九日は全教一斉ひのきしんデー なぎさの森の別名で親しまれる海浜公園で、暖かい光と新緑の芽生えの中、従来の形で大勢で三年千日二年目のひのきしんデーを盛り上げましょう。



この賑わいを今年も

☆支部行事のお知らせ

二十九日全教一斉ひのきしんデー
現地昼食可、詳細は二頁掲載

みんなでのきしん

東京教区では、百四十年祭の活動として「みんなでのきしん」をテーマとしています

・神名流し 一日午前十時開始 大井町駅前 終了後、ゴミ拾ひひのきしん

・大井在宅介護センター 二十七日九時半からの二日を支部のひのきしん活動の日としています 沢山の方の参加をお願い致します

支部幹事会

四月九日(火)午後六時(都南にて)

教区ひのきしん

四月五日(日)午前九時半(本荘組の当番です宜しくお願いします)

☆教務支庁からのお知らせ

・おちば迄の団体券、大幅変更

東京からおちば迄のJR+近鉄の

団体券が変わります

現在お持ちの券は、期限内での使用は出来ます

尚、詳細は判り次第紙面でも紹介致しますが
お急ぎの方は直属等、今まで入手されていた
機関にお問い合わせ下さい

・教区記念祭詳細

立教百八十七年四月四日
午前十時より祭典執行

受付は八時四十五分開始
祭典お勤めは八交代で行います

記念講演

本部長 高井 久太郎 先生

記念講演終了後、今までより多い
十二の屋台が出ます。

配布予定は一時半頃になります
*当日は参加者登録した方のみになります
すので、お近くの教会で参加希望をしてお
いて下さい

今年はこの地の名前でもあるソメイヨシノ
の櫻も楽しめる事と思います

・災害救援ひのきしん

元旦に起こりました「令和六年
能登半島地震」に東京隊も要請に
基づき出動しています

現地の必要性を情報を取りながら
本部で適切な人数と場所の配置を
管理し切れること無く各教区等に
要請を行っています

先のひのきしんでは、主に炊き出し
のひのきしんだったそうですが、
その他にもまだ手が付けられない
力所が多い中、片付け等も手際よ
く、終わった後の有難う御座いまし
たの挨拶も感動頂いているとのこと
です 皆さんの寄付が活動を通し
て届いています

時報手配り四月予定

拠点教会	3日号	10日号	17日号	24日号
日本橋	直送	手配り	手配り	直送
本荘	手配り	手配り	直送	直送
南泰	直送	手配り	手配り	直送
三ツ木	直送	手配り	手配り	直送
水豊田	手配り	直送	手配り	直送

品川支部は、早くから手配りの
実施を進めて参りましたが、
移転する方等手配りひのきしん
者が足らず募集しております

全教一斉ひのきしんデー

日にち 4月29日 (月曜祝日)
場所 大井ふ頭中央海浜公園

(なぎさの森)

時間 十時から十一時半頃迄
九時半現地集合

終了後以前のように大抽選会を行います

昼食は終了後、現地で広げられますが
お弁当は各自でご用意下さい
今回は支部からのハンバーガー等
軽食の配布はありません

駐車場は午後一時の閉鎖まで使えます

修養科

千期を前に

本荘大教会長



今年十月に、修養科はいよいよ第千期を迎えます。おそらくは、皆さんそれぞれに修養科での様々な思い出、経験があるかと思いますが、八年前に私が修養科一期講師を務めさせていただいた三か月間も、私の中で強く心に刻まれる経験となりました。

私がご縁を頂いた修養科生は二十三名の男子クラスでした。一か月目は、皆修養科の生活に慣れるのが精一杯で、私自身も教壇に立つことが苦にはならず、正直、楽だな、こんなもんかなと思っっているうちに過ぎていきました。

そんな四月の半ば、午後のひのきしんが始まる時にクラスの者七、八人が言い争い、揉み合いになりました。とにかく場を治めるために、私が割って入り、落ち着かせ、当事者同士で話し合い、その日はそれで収まりました。小さな事件は続きます。今度はまた別の男の子が私の授業中に同じ詰所の方に對していきなりキレ始め、表出る！ぶっ殺してやる！などと言って騒ぎ出しました。

普段はとても人懐こくて明るい彼でしたが、発達障害があり、それ以後も何度か同様に自分を抑えられな場面がありました。そのように、クラス内で色々な事情や事件が起きるようになってからというもの、今日は何が起ころうかとヒヤヒヤしながら修養科に行くようになりまし。なんとなく常に心がざわついて、不安な日々でした。

毎日修養科が終わるとすぐに神殿に参拝に行き、無事に終えた日は御礼を、何かを見せられた日はお詫びをして、親神様、教祖に胸の内を告白する毎日でした。三か月目に入ったすぐの日曜日、クラスのある年配の方が、同じ詰所の修養科生の嫌がらせに切れてしまい、詰所で暴れて大変な事になっているのです。来てほしいと連絡が入りました。急いで駆けつけると、クラスのやんちゃな仲間も呼び寄せて、中には刃物を手にして相手を恫喝している者までいました。数日後にはその仲間内でいざこざが起きました「ガキの使いでたすけに行つたんじゃねえ」と、年配の方に謝礼を要求する者が出たのです。私は毎日、その方が帰りに一人になるのを陰で待つて、何とか心を治めるように繰り返して話し合いました。

田中豊一

(実はこの時大きな御守護を頂いていたのですが、紙面の都合上、その話はまたの機会に。)